

Appendix 2.2.1 福島第一原子力発電所から 80 km 圏内の空間線量率及び放射性物質沈着量の測定

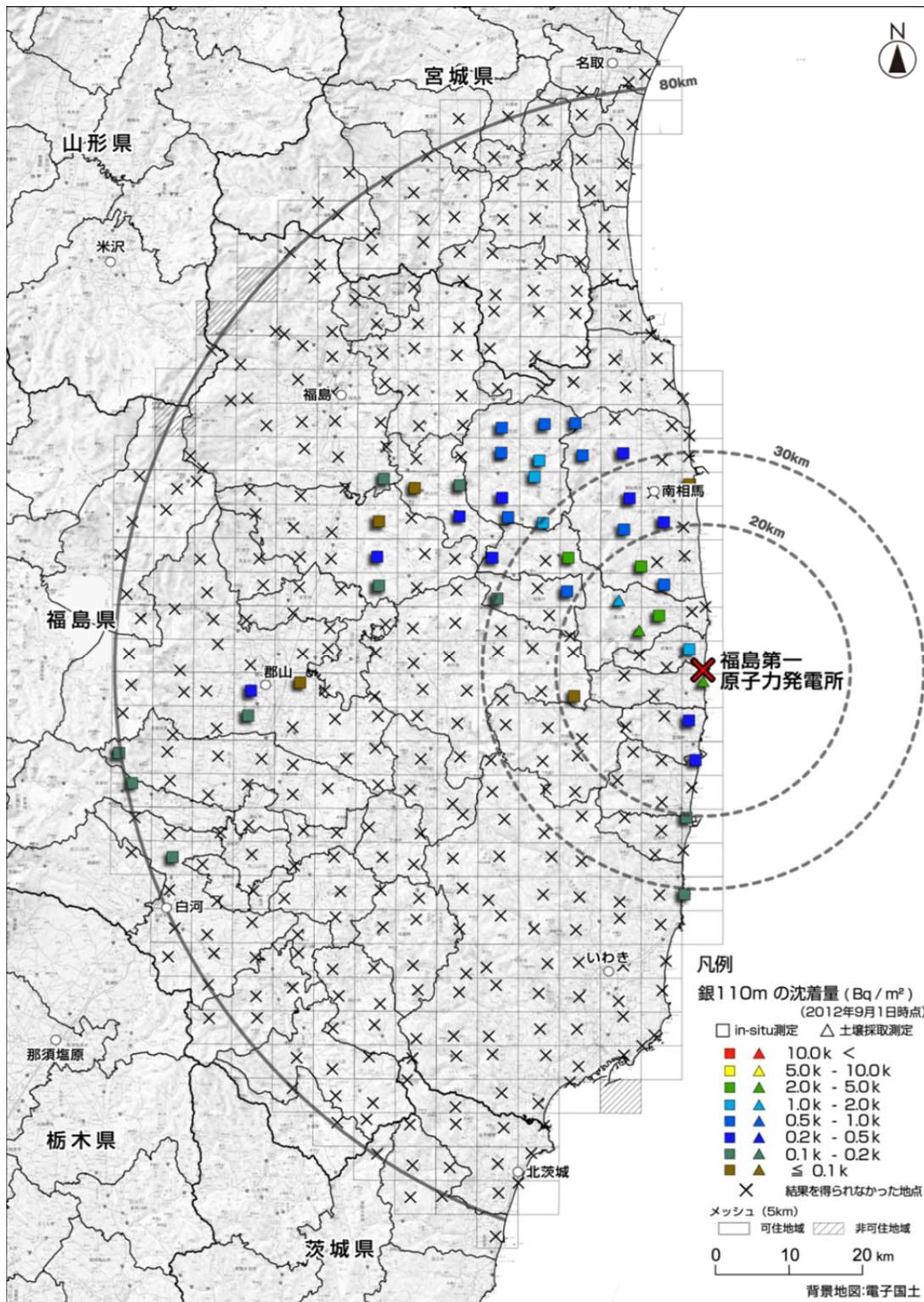


図1 銀110mの沈着量を記した土壌濃度マップ(台風期前)
(平成24年9月1日時点)

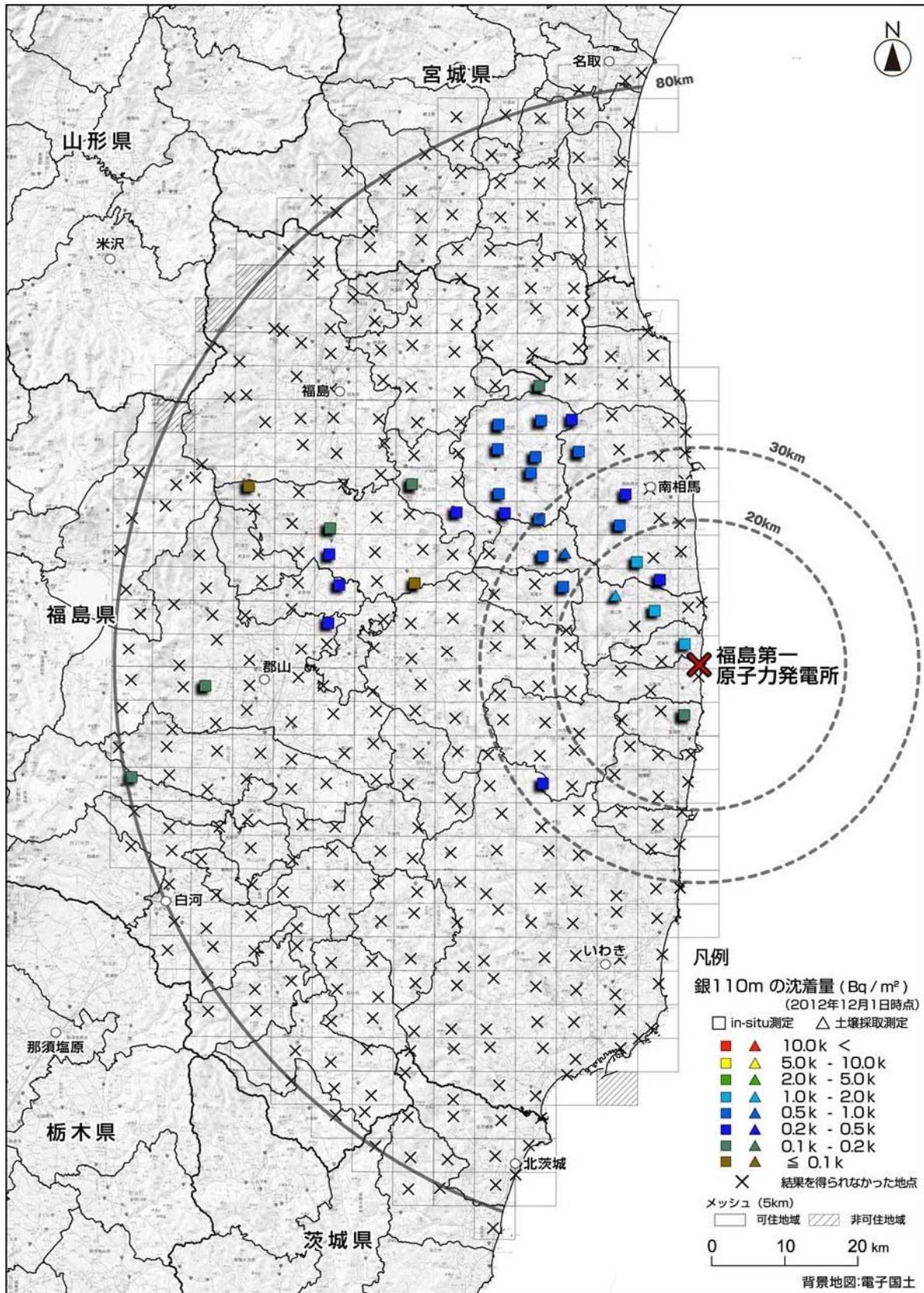


図2 銀110mの沈着量を記した土壤濃度マップ(台風期後)
(平成24年12月1日時点)

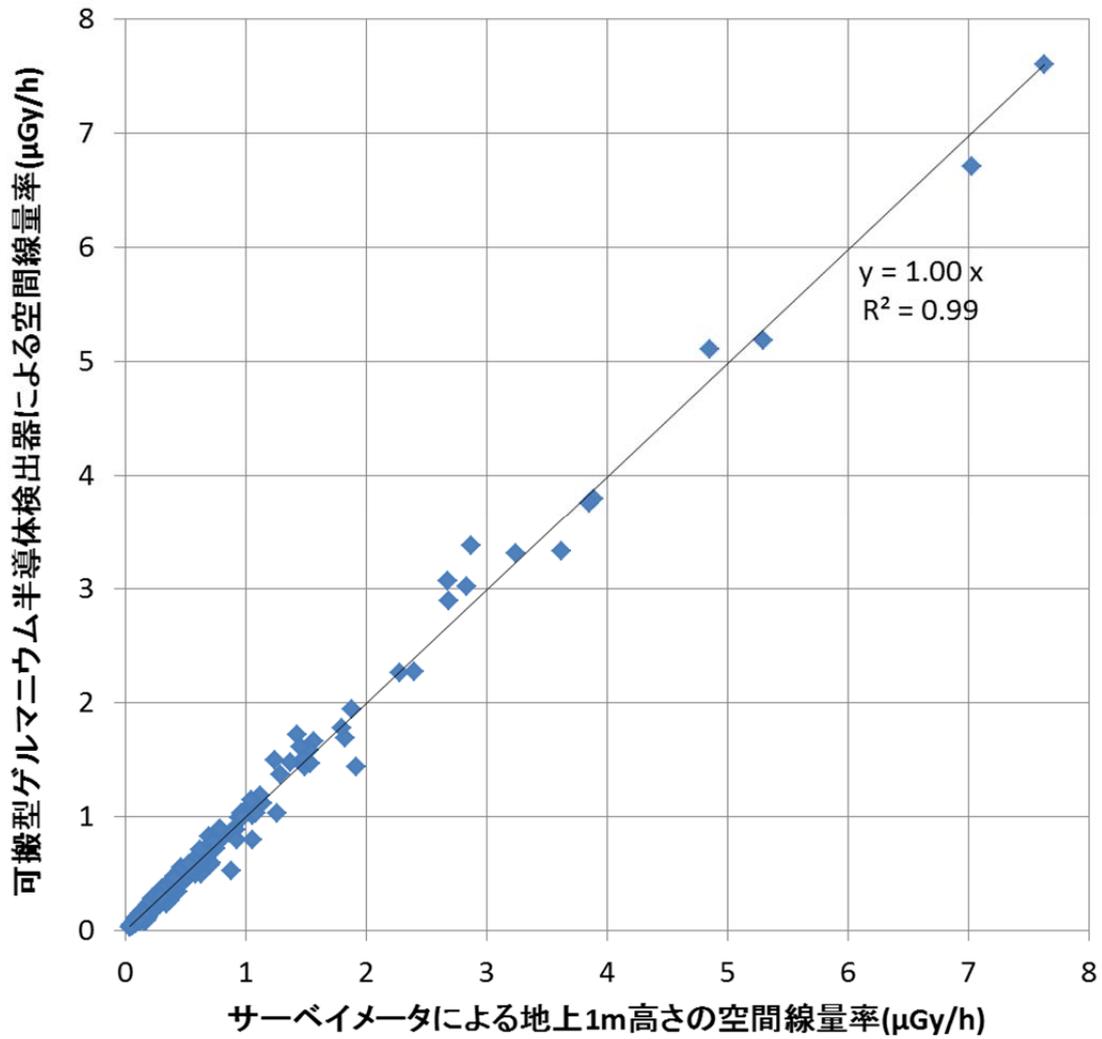


図3 サーベイメータによる地上1 m 高さの空間線量率(μ Gy/h)と可搬型ゲルマニウム半導体検出器による in-situ 測定の結果を基に求められた空間線量率(μ Gy/h)の相関(台風期前)
(平成24年9月1日時点) (データ数 n=373)

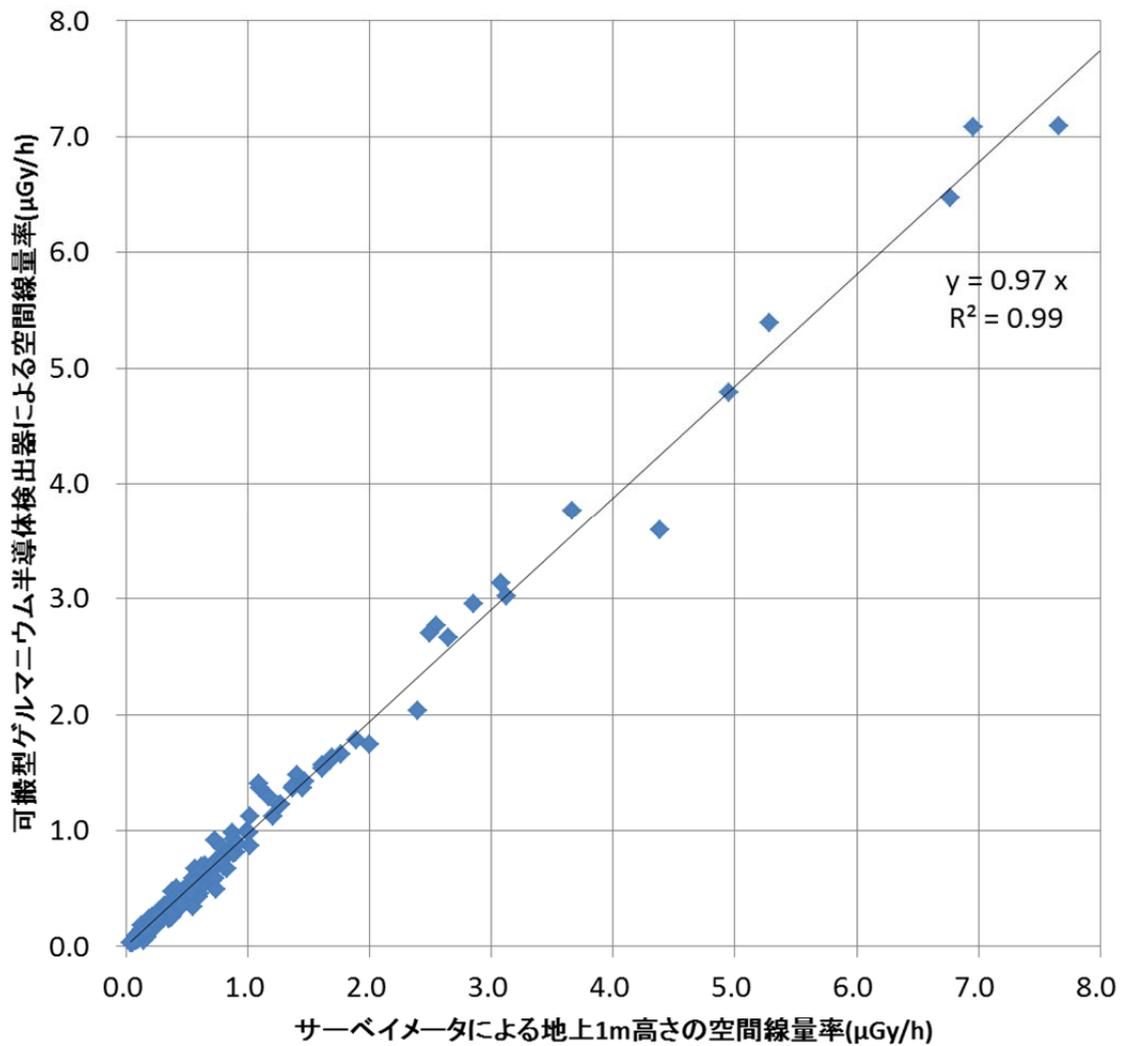
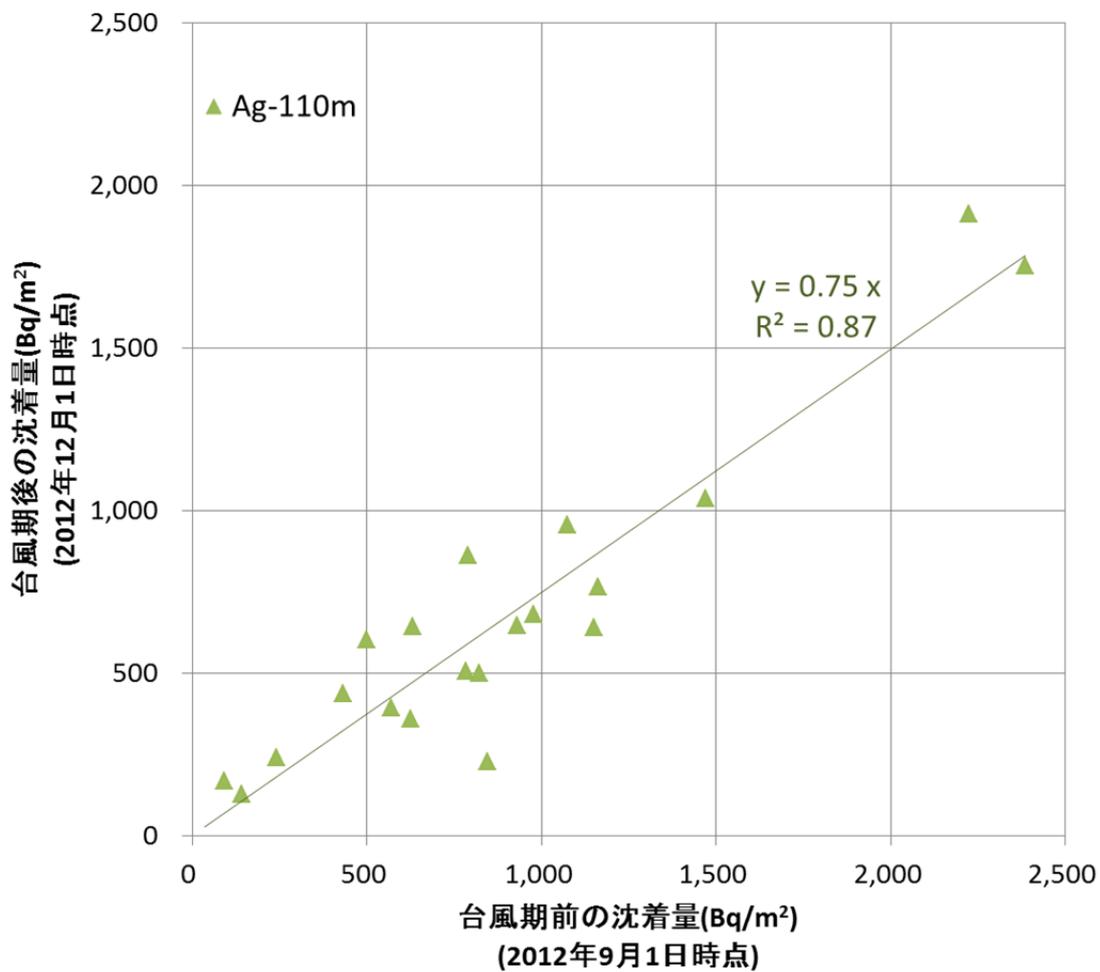


図4 サーベイメータによる地上1 m 高さの空間線量率(μ Gy/h)と可搬型ゲルマニウム半導体検出器による in-situ 測定の結果を基に求められた空間線量率(μ Gy/h)の相関(台風期後)
(平成24年11月5日～12月12日に測定) (データ数 n=373)



※ 台風期前から台風期後の期間(約3ヵ月間)の銀110mの物理的減衰のみを考慮した空間線量率の変化率は22%程度

図5 台風期前(平成24年8月~9月)と台風期後(平成24年11月~12月)の銀110mの沈着量の変化 (データ数 n=20)

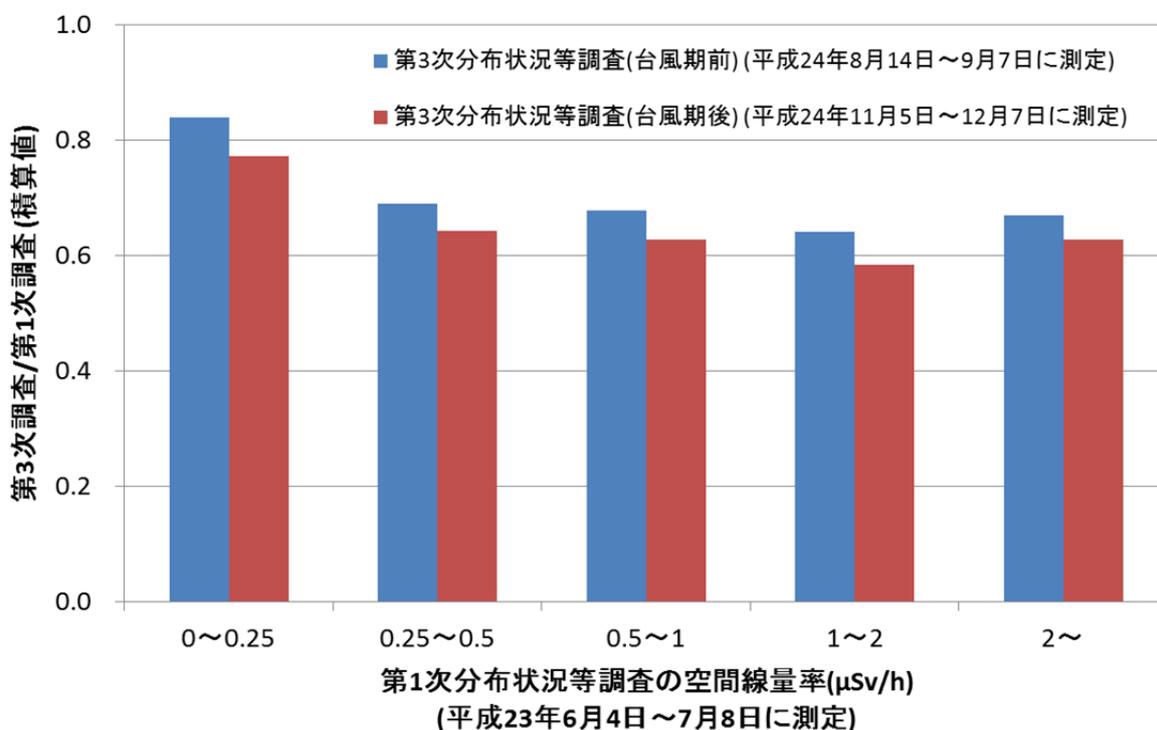


図6 第1次分布状況等調査で測定された空間線量率の範囲ごとの空間線量率の変化の割合
 (空間線量率の変化の割合は、第1次分布状況等調査で測定された空間線量率の積算値に対する第3次分布状況等調査で測定された空間線量率の積算値の比率を指す。なお、第3次分布状況等調査の測定結果からは除染箇所及び土地利用状況が変化した箇所を除いている。また、人工放射線だけを比較するために、空間線量率における自然放射線の寄与分(0.05 μSv/h)を各測定値から引いて比較した。)